

和歌山県立医科大学薬学部 シラバス

科目名	薬学入門 I
科目名 (英文)	Introduction to Pharmacy I
学部・学科	薬学部・薬学科
配当年次・学期	1 年次・前期
クラス	全クラス
履修区分	必修
授業担当者	平田 収正、須野 学、安原 智久、永田 実沙
科目ナンバリング	P6001JA
関連科目	薬学入門Ⅱ、社会薬学Ⅰ、社会薬学Ⅱ、社会薬学Ⅲ、 社会薬学Ⅳ、社会薬学Ⅴ、病院・薬局実習、病院・薬局薬学

本科目が求めるアウトカム・コンピテンシー

薬剤師の活動、役割への理解、社会における薬剤師の役割と責任への理解に基づいた薬学部 1 年生にふさわしい思考、行動選択を行い、社会において薬学を修めた者として相応しい教養を獲得する広い視野で社会の様々な出来事に能動的に深い興味を示し、その成果を他者と共有する。

ディプロマ・ポリシーにおける本科目が養う資質・能力

・人の健康に携わる職業である薬剤師として、より高い倫理観、社会人としての良識を備えているもの

薬学入門 I は、地域・社会に貢献する薬剤師の育成の観点から、薬剤師には幅広い活躍領域が存在し、患者ならびに生活者、そして社会全体に、物質としての薬を提供するだけでなく、公衆衛生を始めとする社会全体の健康・環境の保全に対応する能力が期待されることを理解し、6 年間かけて身につけるべき能力や自らの学習姿勢、倫理観、責任ある社会人としての良識の第一歩を獲得するものである。

アウトカム・コンピテンシーへの到達に関する評価

基本的な知識の再生のみではなく、社会全体に置ける薬剤師の役割・使命への理解に基づいた思考、行動を、討議・発表時の行動およびグループプロダクトから評価する。グループプロダクトに対する評価は薬学入門共通ルーブリックを用いる。

授業計画

回	学習内容・課題	学習方法 (場所)	評価方法
1	授業ガイダンス	講義 (講義室)	プロダクト評価
2	講義 1 薬剤師の職能	講義 (講義室)	プロダクト評価
3	講義 2 病院薬剤師の活動	講義 (講義室)	プロダクト評価 観察記録
4	講義 3 薬局薬剤師の活動	講義 (講義室)	プロダクト評価 観察記録
5	講義 4 研究者としての薬剤師	講義 (講義室)	プロダクト評価 観察記録
6	講義 5 地域医療と薬剤師	講義 (講義室)	プロダクト評価 観察記録
7	テーマ別グループ討議 1	SGD (講義室)	プロダクト評価 観察記録
8	テーマ別グループ討議 2	SGD (講義室)	プロダクト評価 観察記録
9	講義 6 健康増進と薬剤師 1	講義 (講義室)	プロダクト評価
10	講義 7 健康増進と薬剤師 2	講義 (講義室)	プロダクト評価 観察記録
11	テーマ別グループ討議 3	SGD (講義室)	プロダクト評価 観察記録
12	テーマ別グループ討議 4	SGD (講義室)	プロダクト評価 観察記録
13	発表 1	SGD (講義室)	プロダクト評価 観察記録
14	発表 2	SGD (講義室)	プロダクト評価 観察記録
15	発表 3, まとめ	SGD, 講義 (講義室)	プロダクト評価 観察記録

学習内容・課題

グループ討議テーマ前半, 自らのキャリアを考える (病院薬剤師, 保険薬局薬剤師, 製薬企

業，衛生行政，研究（教）職）

グループ討議テーマ後半，薬剤師の公衆衛生における役割と責任（健康管理，疾病予防，セルフメディケーション）

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しない。

評価時期

プロダクト評価（毎回）

発表時の観察記録（8,15 回時）

グループワークの観察記録（3～7、10～14 回時）

評価方法

プロダクト評価（40%）

発表時の観察記録（30%）

グループワークの観察記録（30%、教員による評価とピア評価を含む）

評価基準

本科目は参加型の学習であり、出席を前提とした教育方略・評価を行う。従って、正当な理由なく欠席した場合は、単位を認めない。

総評価の 60%以上で合格。

学生へのメッセージ

薬学を修めたものとしての将来のキャリア、社会的責任に関して議論を行うことで理解を深めていく学習です。知識を与えられることを期待するのではなく、自ら積極的に収集し、評価・選択し、共有して皆さんの現時点での考えをまとめて共有します。

授業担当者は実務経験を活かし、グループ討議の円滑な進行を支援し、グループワークでは気づかなかった点をフィードバックします。

担当者の研究室等

教員室 103（平田）

オフィスアワー：毎週月曜日 12:40～13:40 17:30～18:30

研究室 601（須野）

オフィスアワー：毎週月曜日 12:40～13:40 17:30～18:30

備考、事前・事後学習課題

討議を効果的に行うため、討議に先立ち、基本的な薬剤師の社会的責任や社会の制度に関する知識の事前学習を行うことまた、グループ内での役割を適切に担うための自己研鑽も必要となる。加えて、授業時間内にグループ討議の進行が不十分な場合は、時間外に各グループによる討議を主体的に行うことを推奨する。

和歌山県立医科大学薬学部 シラバス

科目名	薬学基礎実習 I
科目名 (英文)	Basic Pharmaceutical Practice I
学部・学科	薬学部・薬学科
配当年次・学期	1 年次・前期
クラス	全クラス
履修区分	必修
授業担当者	相馬 洋平、田村 理、佐々木 大輔、澤崎 鷹、田中 千晶、 氏家 和紀
科目ナンバリング	P6003JC
関連科目	有機化学、無機化学、有機薬化学 I、基礎物理学、物理化学 I

本科目が求めるアウトカム・コンピテンシー

薬剤師の活動の基盤となる科学的知識、情報収集、思考、判断の重要性を実感し、具体的な手法について経験を通して習得する。高度な医療及び科学における適切な分析、判断を可能とする基礎的な科学的アプローチを修得し、それらを活用した問題解決能力を培う。

ディプロマ・ポリシーにおける本科目が養う資質・能力

・総合的、専門的な薬学の知識とともに、薬剤師としての実践能力や研究を行うに足る技能を有しているもの

薬学基礎実習 I は、物理および化学領域に関する情報を扱い薬剤師として臨床および研究の場で活躍するために、獲得した知識を活用し実践的に物質を取り扱うことで新たな知識を創発的に生み出していく能力を養う。

アウトカム・コンピテンシーへの到達に関する評価

基本的な知識の再生のみではなく、薬剤師、薬学研究者に求められる思考、行動を、実験および討議・発表時の行動から評価する。また、レポートでは、実験により得た知見、特に、科学的分析結果から明らかになる物質の性質を解説した上で、その知見を活用した問題解決に至る考察していることを評価する。

授業計画

回	学習内容・課題	学習方法 (場所)	評価方法
1	実習ガイダンス, 導入講義 1	講義、演習 (講義室)	レポート
2	滴定に関する定量的実験 ・中和滴定	実習 (実習室)	レポート
3	滴定に関する定量的実験 ・酸化還元滴定	実習 (実習室)	レポート
4	滴定に関する定量的実験 ・沈殿 (キレート) 滴定	実習 (実習室)	レポート 観察記録
5	実習発表、討議 1	プレゼン (講義室)	レポート 観察記録 発表のプロジェクト
6	実習ガイダンス, 導入講義 2	講義、演習 (講義室)	レポート 観察記録
7	化合物の分解反応に関する実験 ・温度による反応速度の差を確認	実習 (実習室)	レポート 観察記録
8	化合物の分解反応に関する実験 ・分光分析による定量実験など	実習 (実習室)	レポート 観察記録
9	化合物の分解反応に関する実験 ・pH による反応速度の差を確認	実習 (実習室)	レポート 観察記録
10	実習発表、討議 2	プレゼン (講義室)	レポート 観察記録 発表のプロジェクト
11	実習ガイダンス, 導入講義 3	講義、演習 (講義室)	レポート 観察記録
12	混合有機物の分離・精製に関する実験 ・分液、濾過など ・薄層クロマトグラフィーによる確認	実習 (実習室)	レポート 観察記録
13	有機化合物の分離・精製に関する実験 ・ゲルろ過、再結晶など	実習 (実習室)	レポート 観察記録
14	有機物の定性的確認に関する実験 ・官能基の確認、炎色反応など	実習 (実習室)	レポート 観察記録
15	実習発表、討議 3	プレゼン (講義室)	レポート 観察記録

			発表のプロダクト
--	--	--	----------

教科書

専用の実習書を用いる

参考書

特に指定しない。

評価時期

レポート（毎回）

実験中の観察記録（4、6～9、11～14回時）

発表のプロダクトおよび観察記録（5、10、15回時）

評価方法

レポート（50%）

実験中の観察記録（20%）

発表のプロダクトおよび観察記録（30%）

評価基準

本科目は参加型の学習であり、出席を前提とした教育方略・評価を行う。従って、正当な理由なく欠席した場合は、単位を認めない。

総評価の60%以上で合格。

担当者の研究室等

研究室 1102

オフィスアワー：毎週火曜日 12:40～13:40 17:30～18:30

備考、事前・事後学習課題

実習を円滑に進行させ学習効果を最大化するためには、毎回の実験実習内容に関する予習復習（2時間程度）を行うことが望ましい。また、実験実習後の疑問、不明点に関して自己学習による補完を行いながらレポートを作成すること（3時間程度）。発表用のプロダクトの作成は時間内では困難であると予想されるため、自発的な情報の収集、評価、活用への7～10時間程度は取り組むことが望ましい。